

金沢大学教育学部

附属学校園だより

題字：金沢大学 林 勇二郎 学長

第11号

平成11年11月



目次

全附連北信越地区協議会金沢大会開催される
すこやかな子どもを育てる学校教育と家庭教育—附属学校園の特性に立って— 2~4

「教育実習」「養護実習」「介護等体験」実習生＝学生に聞く

附属学校園いま「幼稚園」＝養護実習＝
園舎のすべてが実習の場 5

附属学校園いま「小学校」＝教育実習＝
事前観察から実習へ 6

附属学校園いま「養護学校」＝介護等体験＝
子どもたちと触れ合う有意義な体験 7

附属学校園いま「中学校」
前半と後半に分けて文化発表月間 9

附属学校園いま「高等学校」
学校の使命と改革—高校の将来構想検討すむ— 10

附属学校園いま「事務部」
広報の意義と職員のかかわり方 11

あゆみ／主要日誌(10月) 12

編集後記 12

すこやかな子どもを育てる 学校教育と家庭教育

— 附属学校園の特性に立って —

日本大学教育協会・全国国立大学附属学校連盟・全国国立大学附属学校PTA連合会

北信越地区協議会金沢大会開催される

標記の協議会が、秋晴れの平成11年10月22日(金)、金沢大学教育学部附属学校園及び金沢全日空ホテルを会場に開催されました。

参加者は、新潟、信州、上越教育、富山、福井、それに地元金沢の各大学の附属各学校園から、総勢258名にのぼり、盛会のうちに終了しました。(協議会日程等は、4頁に掲載)

この協議会に参加された上越教育大学学校教育学部附属小学校副校長内藤 守先生と、新潟大学教育人間科学部附属中学校副校長高橋一榮先生に、この協議会と金沢の印象などについてお伺いしました。

— 遠路お越しいただき、協議会でもお疲れのところ、本校園の広報紙『附属学校園だより』のために時間をとっていただきありがとうございます。この北信越協議会は、前回は内藤先生の上越教育大学で開催され、また、次回の平成12年度は高橋先生の新潟大学が担当されるということもあって、両先生に感想などをお伺いすることにいたしました。よろしくお願いします。まず、金沢と本校園のご感想など。

— キャンパスに夢がありますね —



内藤 金沢は落ち着いた良いまちだと思います。今日の午前中、私は小学校の授業を見学させていただきましたが、子どもたちのマナーのよさに感心しました。また、意欲が感じられますね。

高橋 私も、金沢は歴史と文化が豊かな、落ち着いたまちだと感じます。

附属学校園のこの平和町キャンパスは、本学附属学校の新潟キャンパスと同じくらいの広さですが、こちらは非常に広く感じますね。空間の使い方がうまく、教室も明るいですね。グラウンドが各校園にうまく配置されていることや各校舎の位置など、レイアウトが良いこともあって、キャンパスに夢がありますね。新しいモデルになるのではないですか。

内藤 幼稚園と小学校の建物がつながっていること、さらに小学校と中学校が渡り廊下で結び

ついているという特徴のある造りですね。さらに、小学校で教科の研究室があることなど、環境に恵まれていると思います。また、オープンスペースをうまく利用していることで、広く感じるのでしょう。



高橋 授業については、新潟では自由な雰囲気です。リラックスしているのに比べて、ここでは、規律を感じますね。また、中学校の教室に教壇があるのも珍しく感じました。最近フラットが多いですから。

— 「雪国」からの要望を心一つにして —

— この北信越協議会の意義などについて —

内藤 まず、今回のように、教育の現場、とくにじかに子どもを見ることは、非常に参考になります。そして、学校の運営や授業の在り方など、みんなで考え、話し合い、討論を合同とする、また、協議に参加することで、その後の運営や授業・研究に大いに役立ちます。

高橋 当面する諸問題— その課題や実践上の悩みなど — について、多くの人たちと交流する場をもつというこの会の存在は、大きな意味がありますね。国立大学の「独立行政法人化」のことは、最も大きな問題になるのでしょうか。

来年は新潟で開催することになりますが、金沢のあとはやりにくいのですが、新潟らしいやり方で行いたいと思っています。



本校園正面で (左から高橋先生、内藤先生)

内藤 特に、北信越が共通する「雪国」であるための措置について、心を一つにして要望していくことなどが大切だと思います。

したがって、ここで取り上げられたことなどは、各校園のPTAの皆さんにも広めていただければありがたいですね。

高橋 すぐに解決できない問題もあり、マイナスシーリングという厳しい時期ですが、ねばり強く要望を続けていくことが大切だと思います。

とにかく、新潟で開催される来年のこの会に、多くの方々が参加されることを願っています。

—ありがとうございました。



午後から行われた分科会

金沢大会を終えて



全附連北信越地区協議会金沢大会の副実行委員長として、準備から実行まで尽力された市村祐二さん(金沢大学教育学部附属小学校育友会会長)に、お話をいただきました。

「金沢らしさの大会」を心がけて

派手さはなくても、金沢らしい大会にできないかということを考えました。とくに、本学校園の姿は、できるだけありのままを見ていただくことにしました。授業参観も、ふだんの時間割通りの授業をそのまま公開することになりました。もちろん、いままでの北信越協議会の良いところを受け継ぐのは当然のことです。それに加え、新しい「道」をつくっていくということも必要だろうということになりました。

子どもたちを中心にした視点で

PTA活動の基本姿勢は、「子どもたちを中心に」して、私たちは何ができるのか、先生方との協力はどうあるべきかということを話し合い、何かを得ることです。

今回の金沢大会では、小学校PTA分科会を例に挙げて述べれば、4つのグループに分かれて協議をしたわけですが、この司会・記録すべてを日頃活動をいただいている女性のPTA役員の皆様方をお願いをしました。当初は心配しましたが、打合わせを進めるうちにそれもなく、4つのグループとも、それぞれ特色をもち、活発な協議と討論が行われたと確信しています。

他校園からは、学校でのことを家庭に帰って

から親と子で話し合うことを実践している報告や、父親がPTA活動に参加することになった例など、具体的な事例でもって発表し活発な質疑応答が行われました。

開催校として大きな意義

準備を含めて、司会や記録、さらにそれぞれの分担をこなす中で、役員だけでなく、みんなで盛り上げることができたと思います。PTA連合会の組織や北信越協議会が自分自身のこととを感じる「起爆剤」になったと言えるのかもしれない。これだけとつても、本学で開催した大きな意義があったと思います。

もちろん本学5校園が、この大会の成功のために、それぞれ分担し、取り組んでいただいたわけですが、それぞれの校園にも得るところが多かったと思います。この紙面をお借りして御尽力をいただいた5校園の方々に、御礼を申し上げます。

参加者・関係者に感謝いたします

1日という短い時間での開催でしたが、それだけに内容の濃いものになったと自負しています。また、すべての運営も時間通りに行われました。改めて、参加された258名の皆様、それを支えておられる北信越地区の学校園の皆様、その準備に当たった方々に改めて感謝申し上げます。最後になりましたが、日本教育大学協会、全国国立大学附属学校連盟、同PTA連合会の役員の方々にも御礼申し上げます。

この大会の成果が、あらゆるところで生かされることを祈念しています。

全附連北信越地区協議会金沢大会

参加学校園

新潟大学教育人間科学部附属	新潟小学校、長岡小学校、新潟中学校、長岡中学校、養護学校、幼稚園
上越教育大学附属	小学校、中学校、養護学校、幼稚園
富山大学教育学部附属	小学校、中学校、養護学校、幼稚園
福井大学教育地域科学部附属	小学校、中学校、養護学校、幼稚園
信州大学教育学部附属	長野小学校、松本小学校、長野中学校、松本中学校、養護学校、幼稚園
金沢大学教育学部附属	小学校、中学校、高等学校、養護学校、幼稚園

10月22日(金)

全体日程

10:30	11:00	12:00	12:50	13:20	14:00	16:00	16:50	17:10	18:40
受付 (各参観会場)	施設見学 授業参観 (幼・小・中・高・養学校)	昼食 校長会 PTA会長会 (小・中学校)	アトラクション (小学校・体育館)	休憩 総会	移動	部会・分科会 (小学校・中学校・幼稚園)	会場移動	全体会	懇談会 (全日空ホテル)

部会・分科会	協議内容	参加者
第一部会 管理	附属学校園の運営に関する諸問題	43名
第二部会 PTA活動	PTA活動を活性化するには —抱える問題点と新しい取り組み—	19名 48名 42名 12名 (4グループに分かれて協議)
第三分科会 学校・園	新学習指導要領へ向けての指導のあり方 新教育課程における体育の課題 学校5日制に向けて —合宿・修学旅行を中心に— 新教育課程と教育実習 (実習生受入れに関わる諸問題) 子どもと創る保育の在り方 自立する力をはぐくむ教育	18名 19名 21名 23名 5名 7名



アトラクション (6年生と弦楽合奏部による合同演奏)

附属学校園 いま 「幼稚園」

養護実習

園舎のすべてが実習の場

実習生：干場 小百合さん

川上 智里さん

以上、金沢大学養護教諭特別科学生

実習校：附属幼稚園

— 養護実習に幼稚園を希望した理由

河上 小さな子どもが好きでしたから。

干場 小学校を希望したのですが、希望者が多いので、幼稚園にしました。

— 実習での感想



干場 実習前は、子どもとの関わり方に不安をもっていました。最初の日には、非常に疲れましたが、なれてくるに従って楽しくなってきました。実習で最もとまどったのは、プリントを配って説明することができないということです。ことばにしても、分かりやすくかみくだいて話をしなければならないこと—。

河上 5歳児に「歯のみがき方」を指導したのですが、目で見て、手で触って興味を持たせるということを心がけました。準備した教材でうまく行なえたと思います。ただ、教材を示すタイミングが難しかった。子どもたちはそれぞれ自分のことに没頭していますから、そこへ割り込んで新しいことに興味を引き付けなければならないわけです。

干場 養護教諭の仕事の拠点は保健室だと思いましたが、幼稚園では、園舎すべてがそうです。保健室に待っていても、園児は来ません。実習では、保育の場で養護教諭として、いかに専門的な視野で子どもとかかわっていくかということを勉強しました。



園児の体重測定



河上 幼稚園では小学校や中学校など他の校種と比べて園にいる時間が短いため、内容の濃いものにするため、たくさん子どもたちと接するように心がけました。

— 実習を終えて

干場 座主先生は、子どもに対して母親のように接し、私たち実習生をもつつみこんでしまうような雰囲気でした。強制的ではなく、自分で考えてやれるよう配慮していただいたので、のびのびと実習ができたと思います。保健室での居心地がよかったですね。

河上 座主先生から、やさしさと同時に、力強さを教わりました。養護教諭を誇りに思っており、という感じで、すごく良かったと思っています。実習を終えて、充実感をもっています。

座主真知子養護教諭から



幼稚園では、幼児だから「できなくても当たり前」という前提でかかわることが大切でしょう。しかも幼児にとって幼稚園は、親から離れて初めての集団生活の場です。それだけでも大変なことです。愛情を持って接していきたいです。愛情といっても2通りあり、たとえば、けがをしたとき、「泣くようなけがではないよ」ときびしさを持って励ます愛情と、痛みを共感する愛情とが必要でしょう。幼児は心身の状態などを、泣いて訴える子が多いですから、的確に判断して、子どもたちに安定の場を与えることが大切です。1か月の実習で、これらのいくつかをつかみとっていただけるよう、かかわってきたつもりです。心身ともに健康な人間の育成には、幼児期はとても重要な時期です。そういう意味で、幼稚園で実習できたことに自信を持っていただければと思っています。就職が難しい時期ですが、この実習で得たものを今後に生かしてほしいと願っています。

実習生を指導しながら、私自身、おどおど、びくびくしながら子どもに接した初任当時のことを思い出し、忘れかけていた慎重さや、ていねいさというものを振り返ることができました。

附属学校園 いま 「小学校」

教育実習

事前観察から実習へ

実習生：岡本 裕子さん

森田 淳一さん

以上、教育学部学校教育教員養成課程3年生

実習校：附属小学校

—本年度から教育実習が9月実施となり、さらに6月には事前観察を取り入れ、学校を訪れていますが、いかがでしたか。

森田 事前観察は3回ありました。そこで子どもたちの顔を覚えることができました。事前に授業も参観できて良かったと思います。それによって、実習もしやすくなりました。

岡本 事前観察のあと、その都度レポートを提出しました。

—実習で苦労したことは。



岡本 まず、指導案の作成ですね。ふだん提出するレポートとはまったく違い、作成するだけではだめですから。指導案どおりに授業が進まなくて、大変苦労をしました。

—4週間の実習で何を得ましたか。

森田 担当の先生からいろいろと御指導を受け、授業も参観させていただき、授業の進め方を学びました。実際、公開授業を含めて12回担当し、得たものは大きいと思います。実習期間中に遠足があり、教室の授業だけでないところも良かったと思います。

岡本 先生の子どもたちに対する接し方では、授業中と休み時間で、けじめ—勉強は勉強、遊びは遊び—を感じました。私の受持ちは、2年生で、高学年の授業も参観させていただいたのですが、クラスによって反応がさまざまでした。これを参考に、子どもたちが反応してくれる授業を心がけました。子どもたちの心をつかむ授業ですね。

—将来どういう先生をめざしますか。



森田 まず、第一に子どもたちから見て、ああいう先生になりたいと思われる先生になりたいですね。

実習中に、子どもたちの靴のサイズを聞くために、挙手をさせようとしたのです。すると、担任の先生から、女の子の中でははずかしくて靴のサイズを言いたくない子もいるのだから、そのやり方は適当ではない、と指摘を受けました。

細かなところにも配慮のできる先生になりたいと思います。

岡本 今、学校でのいじめや暴力、家庭内での虐待など、暗い話が続いています。大学の授業でも、そういう悲惨な事例をよく取り上げられます。

こういった問題が起きるには、何か原因があるはずですが。本当のところはどうなっているのか、学校生活、家庭生活両面の実態を知り、過ごしやすい環境を作れる先生になりたいと思っています。

—今回は基礎的な実習です。これを生かして次年度の教育実習を実りあるものにしてください。



それぞれの受持ちの教室で子どもたちと—。



2年3組担任

石川 誠 教諭

今年の教育実習は3回の事前観察のあとということで、子どもたちの顔も名前もある程度覚え、担当クラスの授業も数時間みることができたので、気持ちの余裕を持って臨むことができたことと思います。

4週間という短い時間の中で、皆さんはそれぞれにいろいろなことをつかんだことでしょう。子どもたちの目の高さで物事を見たり考えたり、本気で笑ったり泣いたりする貴重な時間を過ごせたかもしれません。いっしょに授業の準備の苦労を分かち合える友人も得たかもしれません。

しかし何よりも、準備に準備を重ねて初めて授業したときの感触を大切にしてほしいと思います。研ぎすまされた、張りつめた空気の中で子どもたちと「どきどき」しながらつくりあげていった1時間の授業の感触を、身体のだこかに残して次のステップへ向かってください。



6年3組担任

吉川 昌博 教諭

5月のオリエンテーションで顔を合わせて以来4回、9月からの実習を担当することになった4人を見るたびに、「何を大切にするのだろうか？」と期待していた事前参観でした。9月2日実習前日のオリエンテーション76名の実習生に混じって、4人がコンタクトを取りながら実習準備をしている姿をかいま見、ほっとした思いでした。

9月3日実習当日、一番先頭に体育館に入った4人は少し緊張気味。それを見ている私の方が数倍も緊張していたのを4人は知っていたでしょうか。ともかく実習が始まって、授業でも子どもと接しているときでも、自分の教師としての考えを伝えたいと思っていました。

今、実習を終えて、4人が「子どもが好きだ」と心から思える実習になったように思えた4週間、自分の思いが伝わったかなと自己満足しています。子どもたちに一生懸命に向かっている姿は二十数年前の自分の姿を思い起こし、教師の姿を再確認できた日々でした。

担任からのメッセージ

教育実習

養護実習

介護等体験

実習生＝学生に聞く

附属学校園 いま 「養護学校」

介護等体験

子どもたちと触れ合う有意義な体験

実習生：渋谷 圭介さん
吉岡まどかさん

以上、教育学部スポーツ科学課程2年生
実習校：附属養護学校

— 実習担当の原田絹子先生から —

今年度の第1回介護等体験は平成11年5月21日、22日に行われました。1日目に、本附属養護学校の浦田東作副校長から、「周囲から見てだけでなく、言葉をかけたり直接接すること、生の人間の付き合いから子ども一人ひとりの理解ができる」と講話がありました。



運動会での実習生の模範走

—みなさんは、実際に他の養護学校や福祉施設などで、介護の体験をしたことがありますか。

渋谷 私は今回が初めてです。

吉岡 私は小学生のときに、バレーボール教室の仲間と、老人ホームを訪れたことがあります。

—養護学校の実習に参加した感想は。

渋谷 実習に来る前は、知的障害のある方と接したことがなかったので、不安がありました。実習では運動会に参加し、最初はとまどったものの、フォークダンスで、子どもたちと手をつないで踊っているうちに、自分がいつの間にか普通に接していることに気がきました。考え過ぎないで、自然にしていればいいんだなと思いました。

吉岡 私も不安はありました。しかし、子どもたちが明るく元気なのに驚かされました。一人ひとりの行動についても、担任の先生から「あの危険な場所さえ行かなければ大丈夫だよ。」と教えられ、ずっと見ていなくてもいいんだなということが分かりました。

—学生の実習に対する姿勢はどうでしたか。介護体験をどう役立ててほしいですか。



原田 この実習では、全部で29名の学生が参加したのですが、どの学生も最初はとても不安だったようですね。しかし、運動会で子どもたちの手を取って楽しそうにフォークダンスをしているのを見て、もっとお互い触れ合える機会を増やしていきたいなと思いました。

みなさんはスポーツ科学課程専攻ということで、将来は体育の先生やスポーツ・インストラクターをめざしているようですね。社会に出てからもあらゆる場面で、障害のある方々に接することがあると思います。そういう場面でも、とまどうことのないように、養護学校での経験を役立ててほしいと思います。

また、子どもたちは、若い先生がいっぱいいるとあって、喜んでくれます。学生たちの活気が伝わるんでしょうね。養護学校ではたくさんの行事があるので、気軽に足を運んでくれることを期待しています。

実習を終えて…

自然に接することが大切

渋谷 圭介



ぼくは高等部1年の教室を見学した。そこではいろいろな質疑応答が行われていた。先生が生徒たちに質問をし、しっかり答える子どもを見た。その子とは昼休みにも言葉をかわしたが、車に非常に詳しく、驚かされた。

また、これとは別に答えられない子もいた。知的障害と言ってもいろいろな子がいるという認識を持つことができ、勉強になった。

運動会で直接触れ合うことができたのはフォークダンスだけだったが、特別な意識を持つということも必要ではなかった。

当初、この介護体験に参加するとき、最も不安を感じていたのは、子どもたちとの接し方だった。結果として、自分の方が構える必要はないのだ、ということがこの体験を通して分かった。

生徒の懸命さに感動

吉岡まどか



介護等体験をするまで、養護学校がどういうものかあまり分かっていなかったもので、学校に来てすごくみんな明るいことに驚いた。それに、生徒たちは自分の気持ちにすごく正直だった。私は、自分の想像していたのとあまりにも違っていたので少しとまどうところもあった。運動会でも、みんな一生懸命に演技をしていた。私だったら適当に手を抜いちゃうのになと思うところも力いっぱいやっていて、はっと思わせることもあった。生徒一人ひとりとも触れ合うことができて、接し方で抱いていた不安もほとんどなくなっていた。すごく前から知っている友だちのように、生徒の方から接してくれたのもうれしかった。

今回、私たちの毎日の生活とは全然違って、すごくいい経験ができた。また来年も来たいと思っている。

附属学校園 いま 「中学校」

前半と後半にわけて「文化発表月間」

—— 後半に「総合的な学習」を展示 ——



生徒に指導する昔農 徳行教諭と影絵

附属中学校では、今まで1回に集中して行っていた文化祭を、今年から11月前半を「舞台発表」、後半を「展示発表」とする「文化発表月間」として2回にわけて開催することになりました。

前半の舞台発表は、11月4日、5日の2日間にわたって行われ(プログラム別掲)、1年生と3年生がそれぞれクラスごとの演し物を発表しました。当日は、大勢の父兄の方々も参観され、生徒達の演技に見入っていました。

後半の展示発表は、11月19日、20日の予定で行われます。「総合的な学習」への取組みも19日に開催される平成11年度教育研究発表会の一環として展示されます。

11月4日(木)	1年1組	シルエット劇	「ごんとの約束」
	1年2組	シルエット劇	「白雪姫のしあわせ」
	3年3組	クラス劇	「ああ、彼氏がいたらなあ」
	3年1組	クラス劇	「夏の夜の夢」

11月5日(金)	1年3組	シルエット劇	「心の瞳」
	1年4組	シルエット劇	「さるの涙」
	3年2組	クラス劇	「ロミオとジュリエット」
	3年4組	クラス劇	「マイ・ライフ」

創造性豊かな物語に

附属中学校 1年生担任 端名 秀雄教諭

1学年では、毎年恒例のシルエット劇を上演しました。これまでは、世界や日本の昔話などを脚本化した劇でしたが、本年度はクラス毎に「ごんぎつね」「白雪姫」「不思議の国のアリス」「さるかに合戦」という物語を題材としつつも、それらの続きにあたる「後物語」を創作し、それを脚本化して上演するというオリジナリティーのある劇にしました。原作にはない話なので、文章化や映像化の過程で生徒達が意見を出し合い、話し合いを重ねながら、創造性豊かな物語に仕上がりました。

「総合的な学習」の時間——柏樹タイム——では、コンピュータを活用し、生徒一人ひとりが出来上がった脚本を分担して文字入力し、その部分にふさわしい絵をコンピュータで描くという活動を行いました。それを後でつなぎ合わせて班毎に一つの物語として仕上げました。つまり、実際のシルエット劇をコンピュータ画面でシミュレートしたわけです。オリジナル作品のイメージをふくらませることができたとともに、カラフルなコンピュータの絵を創作することで、白黒が基調の影絵の特徴がより明確に理解でき、作画にも大いに役立つ活動となりました。



クラス劇「ロミオとジュリエット」

附属学校園 いま 「高等学校」



石田三郎教諭(左)と木村明人教諭(右)

学校の使命と改革

— 附属高等学校の将来構想検討すすむ —

画策定委員会」が設置されました。このあと、「将来計画検討委員会」など、その時々で役割で、委員会の名称を変更しながら現在に至っています。附属高等学校では、これら5校園の審議に合わせて、独自に委員会を組織し、継続して将来計画の検討を重ねてきました。

1995年(平成7)に、幼稚園、小学校、中学校が平和町キャンパスに統合移転され、この3校園は、施設面では目的を実現したことになります。この時、高校も新営される方向で検討されていたのですが、結果として新営は見送られることになりました。

将来構想の基本方針を3つにまとめて

経緯や背景は、紙面の関係で省きます。

今回の将来構想では「本校の使命と将来構想の基本方針」として、次の3項に整理して述べています。

- 1 高等学校普通科教育課程
- 2 教育研究体制
- 3 教員養成体制

(次ページへ続く)

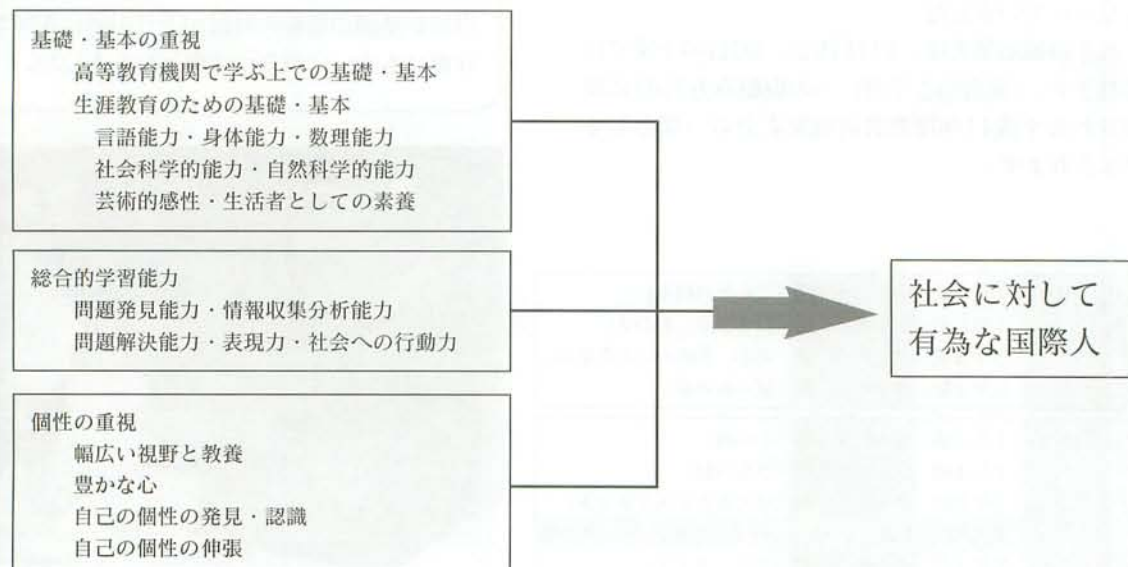
附属高等学校では、将来構想検討委員会を中心に、現在までの経緯とそれをふまえた将来構想—学校の使命と改革等—をまとめてきました。常に検討を加えてきていますが、最も新しいのは、本年(1999年)10月に作成したものです。

本号では、将来構想検討委員会(6名で構成)委員長の石田三郎教諭(附属高等学校教務部主任)、木村明人教諭(同総務部主任)の2人に、その概要等を話していただき、『附属学校園だより』編集部でまとめました。

将来構想検討のきっかけは25年前

1975年(昭和50)に、附属学校園を充実させるため、施設の拡充を目指した「附属学校園長期計

地球サイズの教育



「地球サイズの教育」で、「社会に対して有為な国際人」——高等学校普通科教育で

本校の教育の位置付けを端的に述べれば、高等学校で終わる教育ではなく、生徒が卒業後も教育を受けるという前提です。従って、大学における学問修得や創造的な研究活動に資するための基礎的な資質の習得も視野に入れています。もちろんこればかりではありません。高校生活が充実し、エンジョイされることを重視しています。そのため、各教科・分野での検討が行われ、11科目にわたる「学校設定教科・科目」(案)を策定しました。また、これらの基本となるものが「地球サイズの教育」(前頁図解)です。

高等学校教育では、在学中の生徒のみならず、本校を志望する生徒のニーズにいかに応えるかが重要だと思います。これらを通して地域の要望にも応えることとなります。そして本校が、責任をもって主体的に行なうことがこの高等学校教育です。

学部と連携のもとに推進する——教員養成

研究体制も教員養成も、学部と連携を密にしなければならぬと考えます。特に、教員養成では、

教育学部をはじめ、文学部、法学部、経済学部及び理学部が、学部の学生をどのような教員にして送り出すのかということをはっきりさせていただくことによって、本校での実習がより効果を上げることができると考えます。本年度、本校から各学部に出向いて学部の学生に講義をし、担当の教官と協議を行なっています。

先に述べた高等学校教育は本校が主体ですが、教員養成では、本校は教育実習の分野で参画しますが、学生をどのような教員に育てるかという責任を学部がもつといえるのではないのでしょうか。

悩みは、校舎が狭いこと

地域と生徒のニーズに応え、それらに応じて社会に有為な人材を送り出すため、教育課程を充実させ、それを実施するには今の校舎では物理的に不可能です。それ以前の問題として、このままでは、平成14年度の新学習指導要領の実施さえも困難をきたすおそれがあり、心配しています。将来構想を策定しながら、一日も早く校舎の狭隘化の解消、校舎の新営を念じています。

附属学校園 いま 「事務部」

附属学校園事務系職員勉強会

広報の意義と職員のかかわり方

平成11年11月2日(火)17時から、広報の意義や在り方について、事務系職員の勉強会が行われました。講師は、金沢経済大学の大畠重衛教授で、題は「『附属学校園だより』を拝見して」。

大畠先生には、今年の『附属学校園だより』のモニターになっていただき、毎号、励ましや貴重な御意見をいただきました。今回は、これをふまえ、さらに先生御自身が学会誌の編集責任者をされていること、また民間企業における広報のことなど、体験に基づくものでした。

特に、広報紙発行の意義と、それに携わる職員の物の見方など、有意義な内容でした。

なお、この勉強会は、『附属学校園だより』第10号発行の記念と、反省会を兼ねて行われたものです。

大畠先生は、金沢大学法文学部経済学科(現在は、金沢大学経済学部)の卒業生です。



広報についての勉強会(左から2番目が大畠教授)

平成11年
10月

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 (金) | ★㊦秋の遠足(小学部) | 19 (火) | ★校園長・副校園長会議 ㊦㊧㊨教官会議 |
| 2 (土) | ★㊦創立125周年記念式典 ㊩新入大会(3日まで) | 20 (水) | ★㊦連合音楽会 |
| 5 (火) | ★㊦㊨教官会議 ㊪バス遠足 | 22 (金) | ★全附連北信越地区協議会 |
| 6 (水) | ★㊩教官会議 ㊫避難訓練 | 23 (土) | ★㊨開校記念祭(24日まで) ㊬育友会いもほり |
| 7 (木) | ★㊨秋の合宿(中学部) | 25 (月) | ★㊦募集要項発表 |
| 9 (土) | ★㊩前期終業式 | 26 (火) | ★㊩修学旅行(29日まで)
㊨教官会議 ㊫秋の遠足(高等部) |
| 12 (火) | ★㊨㊨教官会議 ㊬募集要項発表 | 27 (水) | ★㊦避難訓練 |
| 14 (木) | ★㊩後期始業式 ㊭スポーツ大会(15日まで) | 29 (金) | ★㊨学校説明会 |
| 15 (金) | ★㊨宿泊合宿(小学部) | | |
| 16 (土) | ★㊨園開放 | | |



避難訓練(小学校)



開校記念祭(高等学校)



高等部 りんご狩り(養護学校)



修学旅行(中学校)



バス遠足(幼稚園)

編集後記

第11号を平成11年11月11日に発行することになりました。111……。気付いていただけましたでしょうか。

久々に編集後記を担当し、はりきって原稿を書いたものの、11頁の事務系職員研修会の内容と重なってしまい、書き直すことになりました。

以前から「教育実習での学生の生の声を聞きたい」というご意見が多かったので、この『附属学校園だより』第11号でお届けします。内容は、「教育実習」に限らず、「養護実習」「介護等体験」を加えました。

次号発行は年明けの西暦2000年。

(平田 志保子)

附属学校園のインターネットホームページ

- 小 <http://www.kanazawa-u-e.ed.jp/>
 中 <http://futyu.ed.kanazawa-u.ac.jp/>
 高 <http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~hswwww/School.html>
 養 <http://pcen100.ed.kanazawa-u.ac.jp/YOGO/HOME.HTM>
 幼 <http://pcen100.ed.kanazawa-u.ac.jp/kinder/index.html>

表紙について

養護学校のいもほり体験。
 さつまいもの名産地、金沢市郊外五郎島で養護学校が借用している畑。
 6月に植付けたさつまいもを、10月23日に収穫。多数の保護者が参加しました。

『附属学校園だより』第11号

平成11年(1999年)11月11日発行
 金沢大学教育学部附属学校園
 〒921-8105 金沢市平和町1丁目1番15号
 ☎076-226-2181 FAX 076-245-8630
 E-mail fjim@futyu.ed.kanazawa-u.ac.jp

●編集部員

責任者: 寺井 嘉治 (事務長)
 副責任者: 宮崎 幸一 (係長)
 担当者: 東本 清 (主任)
 // 平田志保子 (係員)
 // 作田真由美 (//)
 // 若林 由里 (//)